

一般質問

黒岩 岳雄

(ふらの未来の会)

JR富良野駅の環境整備は

問 JR利用者（特に高齢者、身体障がい者、旅行者等）の対応として、JR北海道に対し駅舎のバリアフリー化の必要性和隣接するトイレの改善を要請し整備促進の働きかけをしては。

答 バリアフリー新法のもと、1日当たりの乗降客5,000人以上の駅は、平成22年度までに優先的に整備された。本年3月31日には、平成32年を目標に日平均乗降客数が3,000人以上の全ての駅をバリアフリー化する基本方針が告示された。

富良野駅の平成22年度の日乗降客数は1,460人と基準を満たさないが、観光客が多数利用し3,000人を超える夏期の状況と高齢化社会等の地域実情を踏まえ、国・関係部署に要件緩和を要請していく。また、隣接するトイレは観光地をイメージづける大切な施設であるので、今後も改善に向けてJR北海道

に要請を行う。



JR富良野駅利用状況

東日本大震災に伴う避難者対応及び放射線量は

問 避難者受け入れ活動をしている市民、市内民間団体の持つノウハウを人づくり、まちづくりに役立てるための支援は。また平常時の放射線量を測定し、数値を公表できる体制は。

答 今回の被災者対応におけるボランティア活動の役割は大きい。行政として公平の原理原則により特別な支援はできないが、長期の受け入れ活動となるため相談に対し温かな対応を心掛ける。放射線量の測定は農業と観光のまちとして必要であるため、道と協議したい。

渋谷 正文

(ふらの未来の会)

農業振興は

問 富良野ブランドの定義とは。
答 雄大な自然景観や美しい田園風景、テレビドラママ北の国からなどのロケ地、国際的な富良野スキー場、環境リサイクルの推進、演劇文化の発信、豊富でおいしい農産物などが、総合的に評価されて富良野ブランドとなっている。

問 関係機関との連携について、共通の農政上の最優先課題は。

答 本市における農業・農村の振興を総合的かつ円滑に推進するためには、関係機関・団体と連携し取り組むことが何より重要と考える。農業の持続的発展に関する対策はもとより、農村の維持及び振興対策、農畜産物の安全・安心の確保対策などについて、関係機関が一体となり総合的に対処することが極めて重要と認識している。

問 農商工コーディネーターの養成について。

答 農業や商工業の専門的な知識を持つ方々の協力を得ながら進めることが必要と考える。



地域力応援コーディネーターの取り組み

市職員の資質向上と研修は

問 民間の経営感覚を育成する交流研修に対する見解は。

答 今後、自治体職員には、めまぐるしい社会の環境変化に対応でき、経営感覚を備え、長期的視野に立った資本管理能力やコスト意識を持った人材育成が必要である。新たな視点に立った職員研修を検討する時期に来ており、民間研修も一つの手法として検討をしたい。

◇その他、土地・労働・資本の充実、新規就農サポート、新たな品目への取り組みなどを質問。